



吾輩はラッキーである。猛暑の夏はなるべく動かないようにしているが、いくら夜行性とはいえ昼間寝てばかりでは能がない。そこでふいっと思い立って出かけることにした。「DOLL EXPO 2012 大人形博」へ。本来猫は人形などの目玉のあるものやメガネをかけた4つ目人間が大の苦手であるが、吾輩の好きな与勇輝さんの人形が展示されているので「まァ、いいか」と腰を上げた。そして何がラッキーかという、その日(8/5 14:00)会場内で30分程の「からくり人形実演」を観られたのだ。その回が最終ということで、次は8/25になるという。いや～面白かった！日本の技に感動した！

そのあと¥5,000でティディーベアを自作して持ち帰れるプログラムがあったが、熊が苦手、みんなが「かわいい〜♥」というティディーベアにも無関心な吾輩はパス。ティディーベアを愛する方はオリジナルを作れるチャンスです。いずれにしてもご興味のある方は下記で詳細をご確認ください。

DOLL EXPO 2012 大人形博 2012年8月4日(土)~8月27日(月) 10:00~17:00(入館は16:30迄)
 グランドプリンスホテル新高輪 大宴会場「飛天」 JR品川駅「高輪口」から柘榴坂を上ること5分。
 当日一般券¥2,000(4歳以下入場無料) 入口で「お金取るんですか？」というご婦人が何名かいらしたが、払って下さい、有料です。 問合せハローダイヤル：03-5777-8600

【展示品】

👑人形作家たちの創作人形

リアルなもの、ユニークなもの、表情もポーズも衣裳も様々。知り合いによく似ている顔があった。トゥーランドット姫もいた。パーブラ・ストライサンドに似た顔もあったけれど？

👑年代ごとのリカちゃん、ジェニー、バービー、ティディーベア

人形たちのファッションが圧巻。ガングロ、ルーズソックスなどの年代ごとの流行から、有名デザイナーたちの衣裳をまとっているものまで。ヴェルサイユ・ファッションなどゴージャス。

👑海外のディスプレイ用動く人形・動物のぬいぐるみ・日本人形・ビスクドール・各国民族人形

なんと！出口付近にAKB48の面々の人形が... (°o°)

撮影許可表示があったのはブリキとぬいぐるみ。何故か昔のロボットが。珍しいので撮ってきました。

ガンダム



鉄腕アトム



鉄人28号



👑会場の外ではカタログ類の他、アメリカのディズニーランド土産や人形などを販売していました。

■からくり人形について■

名古屋からお越しの人形師：九代目 玉屋庄兵衛さんの解説と一行による実演

序：からくり人形と言えば身近なところでは祭りの山車に乗っている。1600年代、京都から始まり100年位のち文楽へ発展し歌舞伎へとつながった。京都では鶴のからくりと言って、当時のからくり人形は出番が終わると、人形師がすべて封印して蔵にしまって帰ったという。そこまでが人形師の仕事だった。「飛騨高山からくり」は「尾張からくり」より100年ぐらい後だそうで、メインの尾張名古屋には270体ほどの人形があるそうだ。武田近江からくり人形には一体に糸が20本くらいついているとのこと。本来からくり人形1体につき3人の人形師が必要だが、今回の出張では何と4体を6人で動かしていた。また人形の目は微細な表情を表現できるように伏し目がちに作られているそうだ。人形師はその表情の研究のために何枚も能面を彫るという。

1. 吹き矢からくり

人形が吹き矢を吹くまでの表情、顔や首の動きが細かく見事だった。



(左は吹き矢からくり 後ろは山車からくり)

2. 山車からくり

鞍馬の烏天狗。少年期の牛若丸が修行に出される一場面。哀愁の表情、体操の鉄棒競技のような忍者の動きが見事。終わってから烏天狗の背に羽が広がる仕組み、人形の胸がパカッと開き、そこから烏天狗マスクが出て口に装着される仕組みの説明があったが、牛若丸が歩く仕組みはまた特殊だった。台にくぼみがついていて、そこに下駄の歯が固定され足が上下に動き歩く。それを操作する棒を「差し金」という。「誰の差し金だ?」という言葉の語源。江戸時代には2枚歯の下駄だったが、玉屋庄兵衛さんはどうしても1枚歯の下駄でやりたくて、構想から10年がかりで実現されたそうだ。

3. 座敷からくり

これは茶運び人形。座敷からくりとは畳一畳分でできる遊びで、茶運び人形の背は30cmくらい。ゼンマイを巻くと人形が客の前まで茶を運び、客が茶を取るとその軽さにより人形は自動的に止まり、飲んで元に戻すとその重みで人形がUターンして主人の元へ戻る仕掛けになっている。ゼンマイを「半分巻けば畳半畳の距離」というように主人は客までの距離を測って使っていた。江戸時代の木製ロボットだ。この人形を作るのは1年がかりだそうだ。中の仕掛けも木でできているので収縮して歪んではいけない。だからそれは湿度の多い3か月くらいを見計らって作るそうだ。人形の顔・手・脚は檜。肩杵・胸杵は桜、仕掛けには花梨の木の縦目だけを使う。何故かという横目は収縮してしまうので、もしそれを使うと歯車が楕円になってしまう。そこで収縮しない縦目だけを使うのだそうだ。そのほかの材料は柘植、黒檀、竹、赤檜。

4. 弓曳童子

これは4本の弓を曳く童子のからくりで、この田中久重作の「弓曳童子」は2体しかなく、もう一体はトヨタ博物館にあるそうだ。トヨタは江戸時代の文化財を収集して保護に努めたそうだ。台座は黒漆に金蒔絵。4面には鼈甲に金刺繍。他材料は柳と犬樫。1本のゼンマイで4本の矢を射る仕掛けになっているが、内部には24金のおもりが使われている。当時おもりといえば主に真鍮だが、真鍮では大きすぎてこの人形の操作には不都合だった。そこで小さくて比重の重い金が使われたという。

茶運び人形の内部



弓曳童子



衣装や囲いを取って内部構造を見せてくれました。
日本ロボットの元祖はすごい!
That's really something! (2012.8.5 記)